

2026

京都芸術大学 ICA京都  
× Port B



Terap Festival オープニング作品「Indung Braga Berjaga」(2024年, バンドン)

# 修学旅行プロジェクト

京都芸術大学 ICA KYOTO × PORT B

Akira Takayama  
Port B



# プロジェクト概要

「修学旅行プロジェクト」は、演出家・高山明（Port B）による《架空の修学旅行をつくる》というアートプロジェクトを基盤に、ICA京都と協働して展開する国際的な教育・文化交流プログラムです。

アートを学ぶ学生たちが「旅」を通して世界と出会い、社会を観察し、歴史を学び、現代におけるアートのあり方を考えることを目的としています。

2025年度から3年間にわたり継続的に実施する計画で、美術大学が試みる新しい修学旅行のかたちです。

## 修学旅行プロジェクト

京都芸術大学 ICA京都  
× Port B

# 長期的な目標

本プロジェクトは単なる旅行ではない、  
あたらしい教育モデルの創出を目指します。



### 国際教育ネットワークの構築

ASEAN諸国と京都芸術大学の間で持続可能な教育プログラムが構築され、長期的なネットワークが形成される。



### 新しいカリキュラム

東南アジアを舞台に、現代アートという土壌における視野の広げ方や、問いの設定を実地で身につけるカリキュラム・モデルを提案する。



### 成果の蓄積

修学旅行のツアーコースは京都芸術大学ICA京都の遺産として蓄積され、毎年新たなツアーが生まれる。



### 社会実装の可能性

将来的には、現代アートを学びたい一般の人々にも公開し、教育資源（ガイドブックの出版、専攻の立ち上げ、事業化・・・etc.）として活用する。

# アジア都市への展開



## ゴールデン・トライアングル編 2025年度

- ・ タイ／ミャンマー／ラオス
- ・ 旅行実施時期：2026年2月



## バンドン編 2026年度

- ・ インドネシア（バンドン）
- ・ 旅行実施時期：2026年9月



## ブッタガヤ編 2027年度

- ・ ブッタガヤ、バラナシ（インド）
- ・ 旅行実施時期：2027年（予定）



高山明氏のツアー作品のなかで地域を紹介する高校生（2025年、バンドン）

## 修学旅行プロジェクト

京都芸術大学 ICA京都  
× Port B

# 募集概要

2026年度バンドン編  
プロジェクト参加者募集

<b>対象</b>	京都芸術大学に在籍する学部生、および大学院生 5名程度
<b>開催日時</b>	2026年9月14日（月）～21日（月）（7泊8日）（予定）
<b>訪問予定先</b>	インドネシア、バンドン
<b>参加費用</b>	実費負担（航空券代・高速鉄道運賃・現地食費）：8万円～11万程度
<b>成果発表</b>	帰国後にドキュメンテーションおよび報告会を実施

[応募フォーム](#)



## これまでの活動

2026年2月8日～15日

## ゴールデン・トライアングル編



第1回目の修学旅行は、タイ、ラオス、ミャンマーにまたがるゴールデン・トライアングル（黄金の三角地帯）を巡りました。かつて世界最大の麻薬製造地帯だったこの地は、現在は政治・経済・観光・アートが複雑に交差する、非常に興味深い観光地となっています。私たちの旅では、チャンライ、チェンマイ、チェンセンといったタイ北部の町をベースに、多様な民族が暮らす山岳地帯の村々を巡り、さらにはメコン川を渡って、ラオスの中国経済特別区を訪ねることができました。参加学生は、旅の体験を知識の獲得にとどめず、実際に現地で得た視点をもとに作品プランを作りました。

## これまでの活動

2025年2月

## 現地リサーチ（チェンライ、チェンマイ、バンコク）



2025年2月、プロジェクトチームはタイ北部チェンライとチェンマイ、バンコクにて現地リサーチを実施しました。チェンライでは、タイ・ミャンマー・ラオスの国境が交わる「ゴールドトライアングル」や、山岳少数民族の子どもたちが通う学校「さくらプロジェクト」を訪問。現地の教育環境やNGO活動に触れながら、境界／教育／社会課題／アートツーリズムというテーマの実態を、現地の状況から捉えることができました。この現地リサーチは、2025年度に実施した修学旅行の訪問地やプログラム内容を具体的に設計するための基礎となりました。

# これまでの活動

2024年3月

# トークイベント@京都芸術大学ICA京都



なりました。京都芸術大学では、比較芸術学研究所・あめだめ大学院学術研究センターで、さまざまな研究プロジェクトを実施するとともに、公開講座によってその成果を学外の市民にも広く公開してきました。小笠原進事務所と協力して立ち上げたウェブサイト「Realkyoto」で、京都を中心とする芸術文化の情報を発信し、これらを中心とした、外延的な広がりや内面的な深みを兼ね備えた多様な活動を  
行なっていくのが、ICA京都創設の目的です。  
たんなるジャーナリスティックな情報でも、アカデミックな論文でもない、グローバルなアートの  
シーンの具体的な現場にアクセスし、またそれについて深く考えたいと思っているすべての人に  
注目していただければ、そして積極的に参加していただければ幸いです。

ICA京都所長 高田彰

**ICA Kyoto Talk 003 2024.3.5**  
会場：京都芸術大学 人間館1階 NA102  
& オンライン・トーク

Tue.  
5:00 p.m.→7:00 p.m.

**高山 明**  
Akira Takayama  
(演出家・アーティスト)

2024年度国際プログラム 高山明  
「交換修学旅行プロジェクト 京都/メコン」  
企画紹介および「タイランド・ビエンナーレ  
チェンライ 2023」報告会

ICA Kyoto 2024 International Program.  
Akira Takayama "School Excursion Project, Kyoto /  
Mekong exchange program" project introduction and  
"Thailand Biennale, Chiang Rai 2023" report meeting

■演出家の高山明は2002年に制作ユニットPortBを結成し、  
都市を舞台として捉える演劇的プロジェクトを展開してきた。  
2018年、東京で実施された高山の「東京修学旅行プロジェクト」  
では「外国人」「旅人」「亡命者」として生きる人たちが選ばれ、  
巨大都市に買収される地帯を描いた。今回、ICA京都と  
協働する「交換修学旅行プロジェクト 京都/メコン」は、  
修学旅行のメッカである「京都」という街を舞台に展開しよう  
とする試みである。ICA京都開催の2022年国際シンポジウム  
「現代アート・キヤピタルの潜在力〜京都、チンマイ、  
ジョグジャカルタを繋ぐ共同体」にて論じられた三都市の  
異文化間の関係性に着目する試みである。この修学旅行

◎経歴  
1999年生まれ。演出家・アーティスト。  
東京芸術大学大学院修士課程修了。  
2002年、演劇ユニットPortB (ポルト  
ビー)を結成。実際の都市を使った  
インスタレーション、ツアー・パフォーマンス、  
社会実験プロジェクトなど、現実の都市や  
社会に介入する活動を世界各地で  
展開している。近年では、美術、観光、  
文学、建築、都市リサーチといった  
異分野のクロスオーバーによる芸術的

タイ、ラオス、ミャンマーが舞台となる  
コート・ド'オライアンブル





2024年3月、ICA京都にて、演出家・高山明（Port B）とICA京都による新企画として「修学旅行プロジェクト」の構想を紹介するトークイベントを開催しました。あわせて、前段企画として大学院生3名が参加した「タイランド・ビエンナーレ チェンライ2023」視察の報告を行い、現地での学びや気づき、現代アートと都市の関係性について共有しました。本企画は、大学院生3名が現地で得た学びを共有し、次年度以降の展開に向けた重要な第一歩となりました。



## 旅を通してアートについて考える

初回の2025年度は、タイ・ラオス・ミャンマーが接するゴールデン・トライアングルを訪れました。2回目となるバンドン編は、公共空間で開催する劇場を持たない演劇祭「Terap Festival」に参加します。25年度は参加者を京都芸術大学の学生に限定して実施しましたが、26年度は東京芸術大学からも参加者を募り、合わせて10名程度の参加者を予定しています。参加学生はフェスティバルで作品を発表する高山明氏の制作チームに加わり、主催者や地域住民と協働して作品制作に参加します。さらに、バンドンで活動するアーティスト・コレクティブやアート・スペースを訪問し、現地のアーティストやキュレーターとの交流を行うほか、歴史的な場所も訪れる予定です。アートを学ぶ学生が「修学旅行」で訪れるべきところだと考えました。帰国後は学生によるドキュメンテーションを作成し、報告会を実施します。